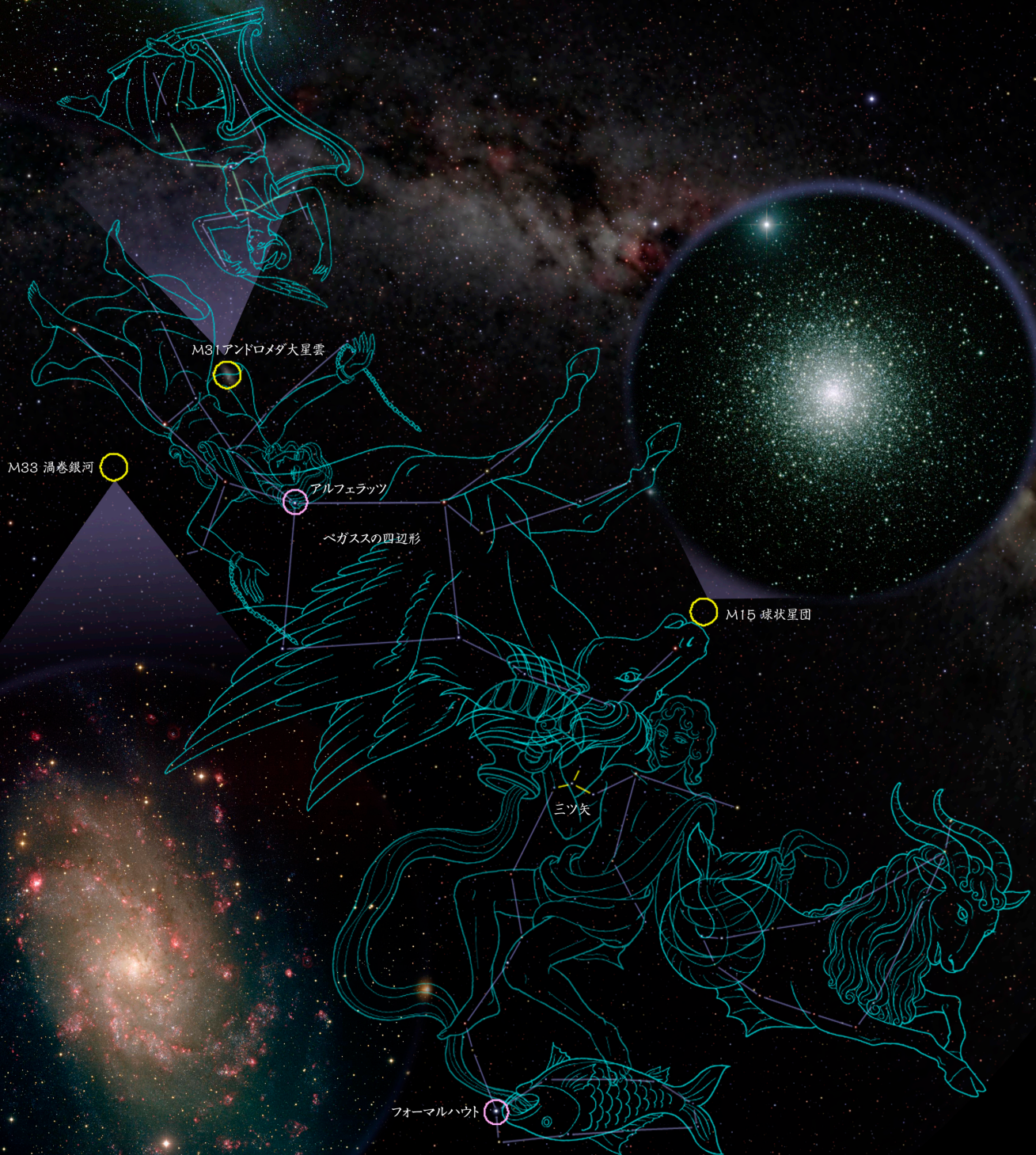


あき せいざかいせつ
秋の星座解説

西の空に太陽が沈み、すっきりと晴れ渡った空には
たくさんの星々が輝きはじめました。
夏のころとちがって、ずいぶん日が短くなってきたこのごろ。
秋の夜長、あなたはどのように過ごしますか？
読書の秋、もいいけれど、たまには空いっぱいの星をつないで
星座探し、なんていかがですか。



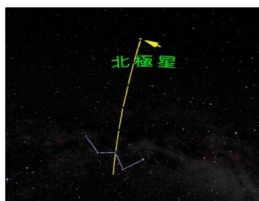
あき せいざかいせつ 秋の星座解説

西の空に太陽が沈み、すっきりと晴れ渡った空には
 たくさんの星々が輝きはじめました。
 夏のころとちがって、ずいぶん日が短くなってきたこのごろ。
 秋の夜長、あなたはどうぞ過ごしますか？
 読書の秋、もいいけれど、たまには空いっぱい星をつないで
 星座探し、なんていかがですか。

(約 16分)

★ アルファベットの M (W) の形の星を探してみましょう

星座を探すときに、一番最初に知っておきたいのが、方角。でも、もし方角がわからなくなっても大丈夫。夜空には目印があるので。空をぐるっと見回して、アルファベットの M、または W の形に並んだ、5つの星を探してみてください。北の方角を知る手がかりになるのは、

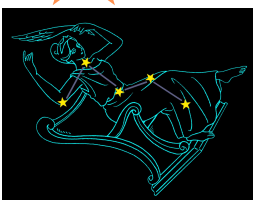


この W の星の並び。W の端の線を延ばしてぶつかったところと、真ん中の星をつないで反対側に延ばしていく先にあるのが、『北極星』。この真下が北になり、その反対側が南。南に向いて左手が東、右手が西。これで方角が確かめられました。

北極星は、一年中、ほとんど同じところに輝いています。また、W の星の並びは、北極星を中心に回るように動いていて、一年中沈むことはありません。つまり、いつでもこの方法で方角を知る事ができる、というわけです。

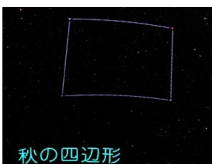


★ ガシオペア座～秋の四辺形～みなみのうお座

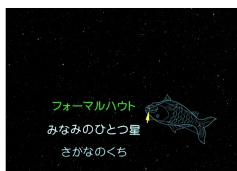


この W の星の並びは、星座でいうとガシオペア座。両手をあげて、椅子に座った姿の古代エチオピアのお姫様です。日本では、この並びを『やまがた星』や『いかり星』と呼んでいました。

今度は、頭の上の高い所。4つの星がつくる、大きな四角形を探してみましょう。これは『秋の四辺形』。この右側の辺をまっすぐ下の方に延ばしてみると、ひとつの明るい星『フォーマルハウト』にぶつかります。

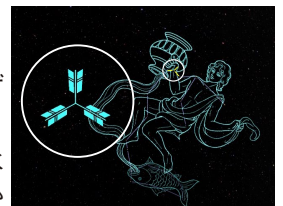


明るい星の少ない秋の夜空で、ぼつんと寂しそうに輝いていることから、『みなみのひとつ星』と呼ばれることも。フォーマルハウトとは『さかなのくち』という意味で、ここにはその名のとおり、みなみのうお座があります。この魚、なぜひっくり返って口をあけているかという...?

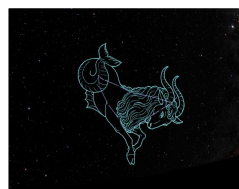


★ みずがめ座～やぎ座

みなみのうお座の少し上にあるのが、みずがめ座。そのみずがめからこぼれた水を飲んでいたので、みなみのうお座はさか



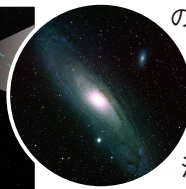
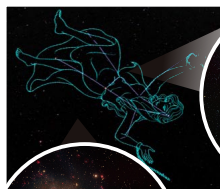
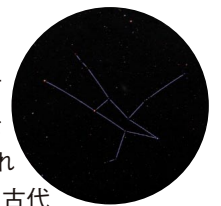
さまになっていたというわけですね。このみずがめ座、星占いの星座のひとつでもあることからよく知られていますが、実際は明るい星が少なくなかなか見つけにくい星座です。この星座を夜空で見つけるポイントは、『三ツ矢』の形の星の並び。これは、秋の四辺形の右下の方を探すと見つけることができます。みずがめ座のおとなりに



は、逆三角形の星の並び、やぎ座があります。上半身はやぎでも下半身は魚の形というおかしな格好ですが、太陽がやぎのしっぽのあたりにくる頃が、ちょうど洪水の時期にあっていたので、下半身が魚の姿になったのだ、などと言われています。

★ アンドロメダ座とペガサス座

秋の四辺形の左上の星から、さらに左上の方へ目を移していくと、アルファベットの A の文字を横に寝かせたような形に星が並んでいます。これは、アンドロメダ座。ギリシャ神話に登場する、古代エチオピアの王女、アンドロメダ姫の星座です。



のあたりには、私たちの銀河系のおとなりの銀河、M31 アンドロメダ大星雲があり、少し下の方には、渦巻き銀河 M33 があります。

さて、最後に秋の四辺形の星座をみてみましょう。秋の四辺形、別名を『ペガサスの四辺形』といいます。そう、ここにあるのはペガサス座。さかさまになって空を飛んでいる、ペガサスの姿が浮かび上がりました。



語り：山崎和佳奈 CG：NOBO 天体写真：NRAO/AUI/NSF & NOAO/AURA/NSF 星座イラスト・説明図：塚田洋子